

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274100524		
法人名	社会福祉法人寿康会		
事業所名	グループホーム高松		
所在地	静岡県駿河区高松2625		
自己評価作成日	令和6年7月30日	評価結果市町村受理日	令和6年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.wam.go.jp/wamapl/hvoka/003hvoka/hvokekka_nsf/aOpen?OpenAgent&amp;JNO=2274100524&amp;SVC=001096&amp;BJN=00">https://www.wam.go.jp/wamapl/hvoka/003hvoka/hvokekka_nsf/aOpen?OpenAgent&amp;JNO=2274100524&amp;SVC=001096&amp;BJN=00</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和6年8月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

急な職員の退職や、体調不良による休職等があり当施設の状況を把握し入居者様とも馴染みの関係を構築した職員が減ってしまい派遣社員をお願いして職員人数は確保しているが、サービスの低下が否めない状況になってしまった。正職員は通常の仕事プラス派遣社員に教えなければいけない状況にあり過酷な勤務を乗り越え、現在は職員も増え、通常業務に戻りつつある。その中でも食事は全て手作りしていた。こんな状況の中でありながら職員の努力により入居者様とは良い関係を保っている。また、施設長が看護師ということで入居者様の健康も常に良好に保たれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

半数の職員が入替わり中、法人と管理者の支えのもと「手作りの食事は利用者の為にも絶対に続ける」とサービスの質を低下させることなく対応してきた過程には、職員一丸となって取り組む熱意が垣間見えます。利用者との関係では、拒否を示す姿が見られたものの、そのような姿になったのには必ず理由があったと顧みて、その後のサービスの質の向上に反映させています。と、同時に利用者や長年積み上げた関わりを通して確かな信頼関係を実感できたことは職員の励みにもなっています。例えば居室の表札には利用者の好きなものがさりげなく添えてあり、職員の配慮が満ちる事業所です

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を玄関の見える位置に掲載し共有出来るようにしている。	事務所にあった理念の掲示物を職員の目につきやすいところに移動させ、意識の定着を更に高めています。理念の浸透が支えとなり、症状が進む利用者に対し「尊厳が基本」をモットーに接することが実践されています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナも落ち着いた為、カラオケ大会、その他イベントも再開。しかしコロナ感染には充分注意している。	コロナが5類に移行したことからカラオケ大会を再開しており、利用者3名が参加しています。自治会長は準備や片付けにも協力的で、日頃の困り事にも対応していただき、町内の催し物への参加の誘いもあります	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に大きな活動はしていないがホームに来る見学や相談には積極的に受け入れるようにしている。		
4	(3)	0 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も開催し、活動報告やホームの様子今後の予定など提出し地域の方々にも回覧板にて見てもらっている。	関係各所の状況入手する機会もなく不透明な現状では、運営推進会議が情報収集の場となり、日頃のサービスの見直しに突っ込んでいます。また自治会長の出席により、隣組への開催通知の回覧も実現しています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活支援課、権利擁護、後見人、保佐人、介護保険課の方々に相談やアドバイスを頂いている。	生活保護受給者が6名おり、静岡市介護保険課との報連相が常態化しています。地域包括センターからの空室の問い合わせに対しては事業所からも空き状況を伝え、双方向のコミュニケーションが成り立っています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。玄関も夜間以外、常時開放している。身体拘束委員会の開催により理解を深め、無意識に起こりうる身体拘束に注意している。	身体拘束廃止委員会を年4回、研修は年2回実施しています。スピーチロックに関しては「ちょっと待ってね」「もう少し寝てね」も虐待に当たるとして対応について協議を重ねています。また、安全性の優先についても検討課題にあげています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にあたる事は無いと思うが、無意識に言葉で傷つけてしまう事もあり得る為、虐待防止委員会を開催し職員一同虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在両方の制度を利用しているが個々の状況により細やかな対応が難しい部分もあつた為もう少し連携が必要であったと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に気になる事、重視する事など説明と共に充分出来ていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の居る方は少ないが、必要時は連絡出来ている。家族の方々の要望は出来る限り聞き取り反映させている。	七夕の短冊には利用者の願いが沢山詰まっており、介護支援専門員は大切なものと認識し保管しています。利用者の声からパン食が好みだと気づき、昼食時に「パンの日」が導入されたことは安心を感じるエピソードです	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の会議を開催し、会議が出来ない時は毎日朝のミーティングで話し合い、解決するようにしている。その時の職員の意見や提案は反映されていると思う。	月に1度のグループホーム会議には全職員が参加し、利用者の状況を共有・検討しています。経験のある職員同士、ちょっとした事例も話し合われており、職員からの提案による改善例もあります	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が減り大変な時もあり、個々の職員の勤務状況や努力、実績の把握は出来ている。今は職員も増え通常業務に戻る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用者に寄り添うときなどは自発的に考え行動してもらおう。研修は中々時間が取れず行っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流は出来なかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの暮らしが苦痛にならないように利用者本人の生活スタイルや重視する部分、会話しながら聞き見極めどう対応すべきかを考える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が考えるケアの方針や自宅での暮らし方を聴き、その上での様な暮らしをして欲しいかを聞いている。その後起こりうる危険なども伝えケアの仕方を決めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援があれば施設内で可能であれば検討し対応している。また外部サービスで対応出来るものであればそちらも対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護介助が必要な方には出来ていると思う。「家族のように」を合言葉に支援し社員も暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの希望があった場合は、外泊外出、また医療機関への受診を出来る限り家族の方の介入をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暮らしの中や会話で馴染みの人や、好きな事、場所など伺っても無い事が多いが何気ない会話の中で見つかる事もありその際イベントやその場に行く事を検討している。	日常の会話においては職員が私的なことを話すことが刺激となり、利用者の発語も増えています。自宅にいた頃、食べていたものや馴染みの場所を訪れたいとの声を受け、その希望を出来る限り叶えています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支えあえるような関係は基本的に難しいが一部の方向士助け合ったりしていたり、世話をやいたりしてくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状ではその様なケースは無いが看取りをしている為最後の時を穏やかに過ごせる事を考え、その他困った事相談があれば聞き一緒に考えるよう努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活する中で最低限のルールは守って頂くがその中で過ごし方、欲しいもの、食べたい物などを叶える事は大事にしている。	介護計画の更新時に家族や本人の意向確認を常としています。一方、食事時間や居室に戻る時間を決めていますがそれ以外の制限はなく、利用者は思い思いの場所で過ごし、職員は見守りに徹しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の暮らしなどわからない方も居るが自分らしさを大切にしたい為会話の中で把握し自由に暮らして頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の過ごし方や認知機能、身体機能の低下は気を配っている。気の付いた事はすぐ共有申し送りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議、朝の申し送りを主な情報交換の場にしてきている。また職員からのアイデアや提案情報は大事に作成している。	介護計画はサービス担当者会議で検討しており、家族にも出席依頼をしていますが、出席が叶わない場合は電話での確認となっています。モニタリングは3ヶ月に一度おこない問題点を洗い出した上で変更しています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段から個人の記録に残す事は基本とし健康面や少しの変化など気が付いたらその場で共有し申し送る事が自然と出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに関しては対応していると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は出来ていないが少しでも豊かな暮らしが出来る事を目標に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療を受けながら緊急時にも対応出来ている。治療方針などに関しても家族に報告、相談を行っている。	協力医による月2回の訪問診療では看護師も帯同、事業所では管理者が立ち合っています。通常の診療結果は家族や保佐人に伝えていませんが、重症化を伴う場合は報告することとしています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師の為、気が付いた事など細かい所まで相談共有出来ている、またインシュリン、バルーン交換、浣腸、傷の処置など定期的におこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院してすぐに病院側と相談し入院期間、治療方針、退院の予定まで大まかに決め、入院中も現状を聞き退院までスムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまでを行っており、最近では家族の方が関わって下さるケースが増えてきた為状況や状態を伝えている。また全体的に重度化している為個々にあったケアを考えていきたい。	ここ1年の間に2名の看取りをおこなっており、「苦しくなく、きれいに」を念頭に置き対応しています。協力医の援助も得つつ、施設長が看護師という強みを活かし、ワンチームで取り組んでいます	特別養護老人ホーム(同法人)の看取りの確認書面を参考に、書面の整理が進むことを期待します
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、急変時はすぐに施設長へ連絡し対応を仰いでいる。誤嚥に関しては食事の形態の変更や食事の変更、薬の投与で対応している。職員が連携し介助方法など確認、伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。避難の際に、避難経路確認し持って出る物の用意など共有した。地域との協力体制も出来ている。	津波・水害の対象地域外ということは、ハザードマップで確認しています。年2回の法定訓練は、主に地震発生からの火災の想定でおこない、併設の生活介護事業所との合同訓練となることもあります	併設の生活介護事業所との合同訓練実施時の課題を明確にし、その内容を事業継続計画へ反映させることを望みます

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族のように近い関係でも普通の何気ない声掛けでも尊厳に充分配慮している。配慮が欠けている場合は、指導している。	重要事項説明書に秘密保持の項目を掲げ、説明の伴う同意書を交わしていますが、書面は法人本部で保管しています。また、利用者への関わりは尊厳を基本とし、特にスピーチロックには注意を払っています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	皆様、食事の味付け、ご飯の硬さ、声掛けであったりと自然に心がけられている。また本人が迷っている時など話を聞きどうしたいかを聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間に関しては生活環境上こちらの都合に合わせて頂く事がありますが、それ以外の時間に関しては自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方は基本本人に任せている。ご自分で衣服の用意の出来ない方は、支援によりいただいた洋服の中で似合う物を渡し着て頂いたりクリスマスには施設長の方からプレゼントを頂き出来る限りの支援をさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は大事にしており、一人一人の好みは把握し苦手なものは代替りの物を出すよう心がけている。朝食以外はすべて手作りしている。	朝食はレトルト(湯煎)を利用していますが、麺類が苦手ならばご飯といった代替サービスも実施され、総じて食への取組が高い事業所です。職員手作りのバーベキュー炉ではピザを焼く日もあり、食欲を増進させています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や疾患によって食べる量や摂取を控える栄養素などがある為気をつけている。水分量にも気を配り排尿の量や季節、入浴後など細かく対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては充分ではないが歯磨き出来る方にはしてもらい困難な方や歯の無い方はうがいや口腔ケアシートなどで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位出来る方に関しては今ある力を維持して行けるよう支援している。また一人一人にあった排泄の方法を検討しおむつ交換トイレ誘導をしている。	毎日の支援経過に排泄の記録を付け管理しています。定時で各自に声をかけ、また立位が可能な利用者にはその姿勢を保ってもらいつつ、パット交換をおこなうという努力と工夫を日々継続しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理もしており水分の定期的な摂取にくわえ下剤の服用、浣腸の実施など一人一人応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は施設運営上決められてしまっているが、曜日や順番など希望により変えている。	入浴は週2回を基本としています。気が進まないという場合には次の日にしたり、対応する職員の交代のほか、特定の職員の対応を好む利用者はシフトに合わせて予定を立てるなど、気持ちよく入浴できるようにしています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や姿勢行動などで体調の変化により積極的に休息を取ってもらうようにして長時間の車椅子の使用は避けて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師がいる為管理出来ており。職員にもわかるように服薬している。用法、効果、副作用を個人記録に入れてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割については現状中々難しいが洗濯たみ、お掃除、広告折りとそれぞれ出来る事は協力して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在職員も少ない為中々外出出来ないが陽気の良い日には施設の外に出て日向ぼっこをしたり、おやつを食べたりしている。	近所の100円均一の店舗やドラッグストアへ一緒に出かけ、利用者自身の欲しい物を購入しています。端午の節句では前庭で食事会を催し、負担なく外の空気を味わえる工夫があり、利用者からも「気持ちがいいね～」の声が聞かれています	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	経済的に厳しく自由に使える方は少ないが、その中で出来る限り使える範囲で希望に応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今は携帯を持っている利用者も居ますが希望に応じて家族に確認し、電話出来るよう手伝い、手紙も投函し対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃は分担して清潔をたもっている。玄関には季節を感じられるように掲示物、外出時の写真など置いている。また現在は鑑賞魚など置いている。	折り紙金魚の暖簾からは季節感を大切する姿勢が伝わります。きれいに管理された熱帯魚の水槽も涼やかで、利用者がじっと眺めていましたし、2階の窓から戸外を眺める利用者にはソファが置かれており、生活動作に合わせた空間提供があることを視認しました	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごせる方にはそれぞれテーブルを用意し過ごしやすいよう心がけている。時には気の合う同士会話されている姿を時折目にする事が増えた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は危険が無い物、欲しいものや馴染みのある物など持って来て頂いている。	「早い段階で移動を考慮して空間を確保している」「自宅で使っていた家具を好みで配置して、家族写真や小物を飾っている」「テレビやラジオカセットに本人の趣味が滲む」、居室からは個を大切にしていることが受け止められます	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	機能低下している人も増えてきている為自立出来る生活が送れるよう個々に合わせた環境を作るようにしている。		